

復 命 書			兵庫県立大学環境人間学部	
環境人間学部長 事務部長 事務部次長 総務課長 課 員				
復 命 年 月 日	平 成 20年3月31日	出張先	住所 福岡市博多区博多駅前2丁目18番25号 韓国プサン市 ソウル市	
出張期間	自20年3月28日 至 年3月31日 (4日間)	復命者 職 名 氏名印	教授 岡 田 真 美 子 ㊟	
出張用務	日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト事業（以下人社プロ）内の川・湿地・ため池文化環境研究の一環として韓国フィールドワークを行った。			
復 命 事 項 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト事業（以下人社プロ）「日本の空間学研究グループ」（グループ長 桑子敏雄東京工業大学教授）と「日本型地域ネットワーク研究グループ」（グループ長 岡田真美子 兵庫県立大学受託研究 H15-20）が合同で行う韓国調査のうち、伽耶の川・湿地・ため池と文化歴史環境ー日本と韓国との比較ーについての調査研究を行った 同行研究協力者 合田博子 添付資料 1. 旅程表 2. 調査報告概要				
支払区分	☒ 県 費 （受託研究費 人社プロ）○印で囲むこと			

伽耶・チョンゲチョンFWS日程表

日次	月日曜	発着地	時間	交通機関	摘 要
1	3月28日 (金) (博多泊)	姫路市 JR 博多駅着	17:31	のぞみ 183号	
2	3月29日 (土) (釜山泊)	博多港発 釜山港着	09:30 12:25 13:30	ビートル 107 専用バス	ULSUKDO ウルスクド湿地 洛東江河口環境博物館 金海（伽耶の古都） 首露（スロ）王陵 許 黄玉王妃陵 伽耶建国の地 亀旨峯 チャガルチ市場見学
3	3月30日 (日) (ソウル泊)	プサン駅発 ↓ ソウル駅着	8:35 11:24	K T X 118	車中より洛東江、山手に散在 する円墳墓地およびため池を 観察 清溪川（チョンゲチョン） 景福宮（キョンボック） 国立民族博物館見学
4	3月31日 (月)	ソウル駅発 ↓ 釜山駅着 釜山港発 博多港着 博多駅発 姫路市	8:30 11:11 13:00 16:10 17:30	K T X 113 ビートル 222 のぞみ	洛東江湿地の観察 15分延着

宿泊ホテル

3月28日(金) 合田/岡田宿泊先(17.30 すぎチェックイン)

ホテル日航福岡 TEL : 092-482-1111(代表)

住所 : 812-0111 福岡市博多区博多駅前2丁目18番25号

3月29日(土)

釜山コモドアホテル TEL:051-466-9101 FAX : 051-462-9101

- ・ホームページ : <http://www.commodore.co.kr> (日本語)
- ・交通 : 地下鉄1号線釜山(プサン)駅1番出口徒歩10分
- ・住所 : 釜山広域市中区瀛州洞743-80

<http://www.konest.com/area/busan/stay/no1184.htm>

3月30日(日)

ソウル ロイヤル ホテル

Seoul Royal Hotel TEL:82-2-756-1112 FAX : 82-2-756-1119

- ・ホームページ : http://www.royal.co.kr/jap_royal/index.php
- ・住所 : ソウル市中区明洞1街6番地 6, myeongdong 1-ga joong-gu, seoul

e-mail : reser@seoulroyal.co.kr

<http://www.konest.com/area/busan/stay/no1184.htm>

報告概要

3月29日第1日目

1. 博多→プサンの海路

倭韓の往来人たちが通った道を見んと、韓国との往復は空路ではなく、海路が選ばれた。

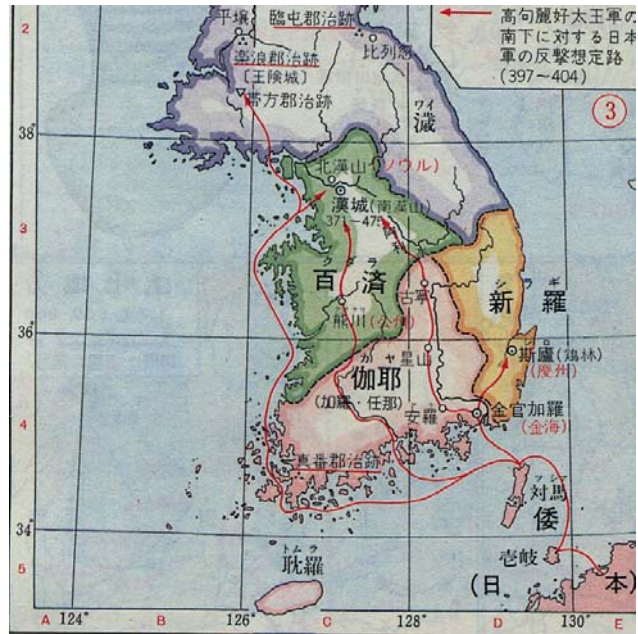
博多港から出発時に、脊振山を確認。はっきりとよく観察できた。なるほど航行の目標とされる「山あて」の山であると納得できた。

対馬が見えてからは、この島の右岸に沿っての航行が続き、これが終わると、そこからプサンはごく短い時間で着いた。

航路は右の4世紀の道とほぼ重なる。違いは次の2点である：

- ・壱岐・対馬に寄港しなかったこと
- ・金海ではなくプサンに上陸したこと

帰国後、一行のなかの山下輝和氏より朝鮮通信使の通った道を示すコピーが送られてきた。これもほぼ同じところを通っている。対馬沖がより近くなっている。ビートルは4世紀の航路とこの使節が通った航路の間あたりを北上した。



2. 洛東江 乙淑島湿地と河口エコ・ミュージアム

金海は盧武鉉（ノ・ムヒョン）前大統領の出身地である。この金海の海に注ぎ込む洛東江（ナクトンガン）は全長 525km, 韓国では最長の河川である。河口に至るまでには大規模な中洲（乙淑島 =ウルスクド）がある。釜山広域市沙下(サハ)区に属している島。洛東江河口は、1960 年代には 80～100 万羽の水鳥が渡来して、東洋最大の渡り鳥の飛来地として天然記念物第 179 号に指定された。洛東江(ナクトンガン)河口堤の完工によって島が公園化されるとともに、大部分の葦畑が失われて生態系が急速に破壊されていった。これに対して釜山市は、乙淑島開発計画で島一帯を核心保全区域に指定するなど、乙淑島復元事業を推進している。洛東江河口のウルスクド湿地の公園化には多額の費用がたぎ込まれ、皮肉なことに湿地の葦原が消滅して韓国一の渡り鳥飛来地は 40 万羽渡来する忠清南道の瑞山（ソサン）の浅水湾（チョンスーマン）干拓地に譲っている。

洛東江河口一帯を保全・復元するために乙淑島生態系復元事業が推進され、2006



首露王陵よりむしろ立派だったのは、許黄玉(ホ・ファンオク)王妃陵のほうである。まずロケーションが亀旨峯のすぐ東にあり、南に海を臨む丘陵地にある。



「駕洛国記」によると、王妃は古代インドの阿踰陀(アユタ)という国の姫であったと伝えられる。阿踰陀はラーマ・ヤナの舞台となった Ayodhya (打ち勝たれがたい) の都のことであろう。インドから王妃がきたというのは当時の国際性を思えばそう不思議ではない。日本にもインド僧「婆羅門」「実忠」をはじめ複数のインド人が渡来している。チベットのソン・ツェン・ガン・ポ王の后は中国の姫とインドの姫であった。

王妃の墓の右手に見える婆娑(パサ)石塔と呼ばれる石の塔は王妃が伽耶に来るときに持ってきたものと伝えられている。この石塔に使われている石は韓国にはない種類のものであることがわかり、古代インドからやって来たという説を裏付けるものとなった。



4. 龜旨峯（クジボン）

許王妃陵から続く道を通して龜旨峰へゆく。龜旨峯の土は赤かった

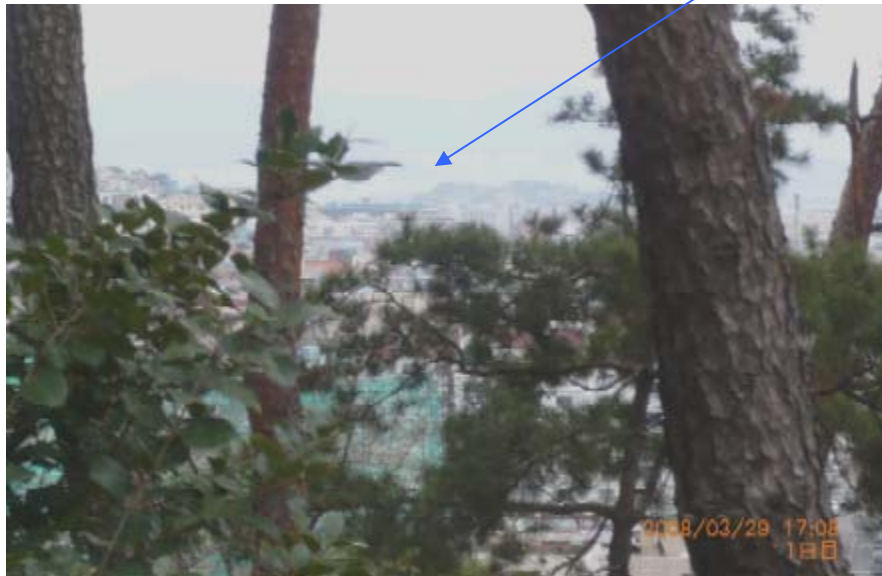


大王とは首露王のこと。『三国遺事』駕洛国記にある、天から彼を迎えるために九千らが歌った「龜旨歌」が刻まれた碑が丘に立っていた



頂にあった亀方の大きな磐座。「龜旨峯」と彫られている

龜旨峯は予想したより低い岡であった。しかし、頂上に立ってみると、金海が見渡せる。ということは海からはこの岡が見えるということであるか。（山下輝和氏のこの場所のメモには「金海をわしづかみ」としてされていたそうである）



なお、仏教研究者が「亀じ」と聞くと亀慈（きじ・クチャ）国を連想する。もっとも有名な亀慈出身者は、妙法蓮華經を訳した Kumārajīva 鳩摩羅什（350 年・409 年、あるいは 344-413）であろう。クチャの王は白氏といわれ、『平等覺經』を訳した帛延（白延）のように「白」（帛）のつく訳経者は亀慈国出身者である。（たとえば竺はインド 竺法護、支は月支 支謙、安は安息 安世高）まさか、龜旨のくじはクチャとは関係ないだろうが。

クジボンと「筑紫の日向の高千穂のくじふる峰」の関係はどうなのだろうか。「くじふる」というのはなんとも不思議な響きである。天理教本部のある布留遺跡で、フルは「くじふる」の「ふる」か、と思ったが、こんどは、そのくじは「クジボン」の「クジ」かという思いが脳裏を横切った。

5. プサン→ソウル車窓 KTXの道は朝鮮通信使の通った道

http://www.seoulnavi.com/home/home_korail.html



KTX は長い 19 両



9 : 0 0 母なる洛東江ラクトンガン



10 : 24 ため池

8

りにもため池があったようで、再度調べてみたい



10:29 山の端には墳丘墓が多く見受けられる



墓石はなく土饅頭

6. 清溪川

再生された清溪川を見学。ソウル市内の下水道として使われていた清溪川の水質悪化と、流域のスラム化のために、市当局は川を暗渠化し住民を強制移住させるとともに、暗渠の上を通る清溪高架道路を 1971 年に完成させた。清溪川復活を求める世論の高まりとともに、市は 2003 年 7 月から 2005 年 9 月にかけて清溪高架道路の撤去と同時に河川の復元工事が行った。現在では河畔が市民の憩いの場となっている。下流の汚染は深刻であるともいわれる。(Wikipedia)



12:30 サンミルギョ(三一橋)から出発



陶器壁画「正祖班次圖」幅 2.4m、長さ 192m

川端の陶板画は、1795 年、正祖の母、恵慶宮洪氏が還暦を迎えて、父、思悼世子の墓、顯隆園がある華城(現在の水原)に出向かれた行程を描いたもの。1779 名の随行員と 779 頭の馬が護衛し、御駕行進の姿を描いた。



12:50 清溪広場 1日6万5000tの水を落とす

阪神・淡路大震災のとき、当時勤務していた須磨の神戸女子大学に行く途中の千守通りはマンションが達磨落としのように上の階が地面に落ちていた。そのあとしばらくして、突然千守通り自身が陥没した。そこでわれわれは、通りの下に千守川が流れていたことを知ったのであった。それから、暗渠というものは恐ろしいものだというのが頭を去らなかった。清溪川は千守通りのようにならなくてよかったと思う。

再生された清溪川は大勢の市民でにぎわっていた。あまりに「親水空間」という感じがしたのが少し残念だった。

7. 蔘鶏湯

百濟蔘鶏湯（中区明洞1街 50-11）
で삼계탕を食べる。高麗人蔘と丸ごと一羽の若鶏のおなかにもち米、干しナツメ、栗、松の実、ニンニクなどがつまめられて作られる。骨も食べられるほどやわらかい。20世紀になって誕生した料理らしい。この店は鶏蔘湯が蔘鶏湯という名前になったころできた



昨夜のチャガルチ市場での夕食がきつかったのか腸が傷んで、朝は下血が激しくショックを受けたが、この料理のおかげで症状はぴたりと止んだ。驚くべき薬膳である。

8. 景福宮 キョンボックン 경복궁

無学大師の風水に基づき漢江の北なる「陽」の地に、北岳山、仁王山を玄武とした（ソウルは西に徳陽山と東に龍馬山あり）地に建設された宮殿。清溪川を歩くグループと別れ、合田教授と訪れる。（もうひとり、山下氏は昌徳宮へ行かれた）



西の仁王山（いんわんさん、338m）



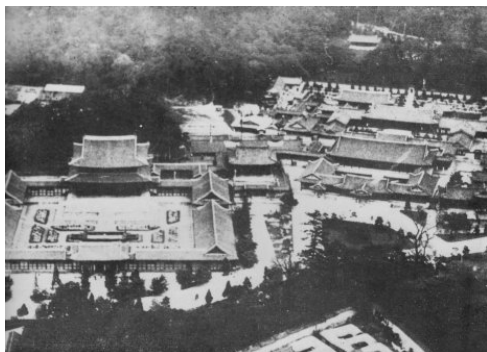
北岳山 Pugaksan と興礼門

見事な風水である。北岳山を背にした景福宮の威厳は見事に復活していた。西の仁王山には、南山から移された国師堂があり、巫俗（シャーマン）を残している。また、政争のために一時離縁されて城外にでて二度と応急に戻れなかった悲劇の王妃が王に忘れないでという思いをこめてスカートを広げた後が今も見られると伝えられる。

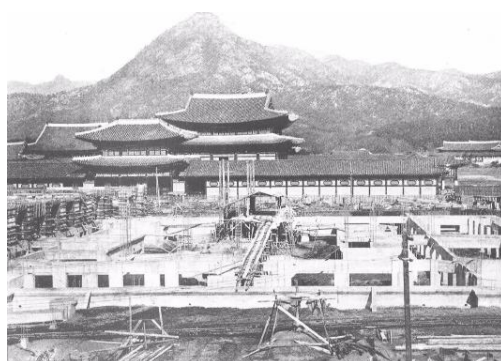
山下氏は帰国後風水を探索され、清溪川が水朱雀ではないかという見解を示した。漢江の北(陽)で漢陽と呼ばれたソウルだが、清溪川が朱雀というのもなかなかいい。

景福宮と日御碕神社

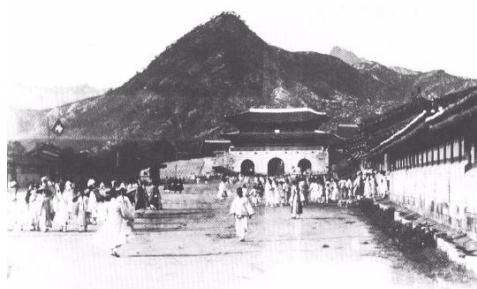
かつて王宮内に立てられていた植民地政府の朝鮮総督府は国立博物館として使用されていたが、1996 年ついに取り壊され、今博物館はソウル駅の南東部に新築されている。



かつての景福宮



建設中の総督府



1900 年ころ



1920 年ころ

http://www.dce.osaka-sandai.ac.jp/~funtak/photo/seoul/soutokufu_frame.html

光化門（景福宮の正門）を移転し 景福宮の中心である勤政殿などは残し、その間に王宮を遮ぎってふさいでしまうように朝鮮総督府は立てられていたと聞いて思い出したことがある。出雲の日御碕神社である。日御碕神社は日の本の夜を守れという使命を持った神社である。上の本社(写真)は素盞鳴尊を祀っていて西方の海を向いている。日没をのぞむので、なほ夜を守るといことが納得される。

ところがこの本社と海の間に割り込むように大きな下の社が立っている。天照大神の下宮である。鳥居をくぐって、いかにも大きな下の宮が本殿であるという風情である。しかし、本殿は東向きに立てられ、日没の宮、日御碕らしくない。人社プロ出雲の旅で日御碕神社を訪れたときに、桑子、島谷両先生はこの建物配置はおかしいとすぐに直感された。果たして上の宮から降りてたらたら下ると、もうひとつ海側に別の鳥居があって日没を遥拝する位置にある奥の宮本社につながる。

こちらが古い入口で、下の宮はあとから割り込んで立てられ、そちらを正面とした鳥居がもうひとつ反対側にたてられたのではないかということになった。国つ神である素盞鳴尊を、天つ神天照大神が通せん坊している体である。

朝鮮総督府は同様に朝鮮王朝の中枢部を覆い隠すように、都と宮殿を遮断する形で立っていた。民の宮殿へのまなざし、宮殿から民を見るまなざしというネットワーク・パスを断ち切る形で総督府は立てられていた。朝鮮総督府がいかに立派な建物であったとしても、戦後独立した韓国の国民が取り壊すことを望んだのは当然であろう。



9. 国立民族博物館 국립민속박물관 クンニッミンソク パンムルグァン

景福宮の東に隣接する。ソウル特別市鍾路区(チョンノグ) 世宗路(セジョンの7)1-1

第1展示館は韓民族生活史、第2展示館は生業・工芸・衣食住、第3展示室は韓国人の人生とそれぞれテーマ別に分かれている。「子供博物館」、野外展示場が併設。



国立民族博物館



キムチをつくる人々



右手には国見をする人々



富裕な長の家でのまつり



百済 (意外に質素)



新羅(金の装飾あざやか)



高句麗 (洪い)



新羅王妃の胸には魚のアクセサリー



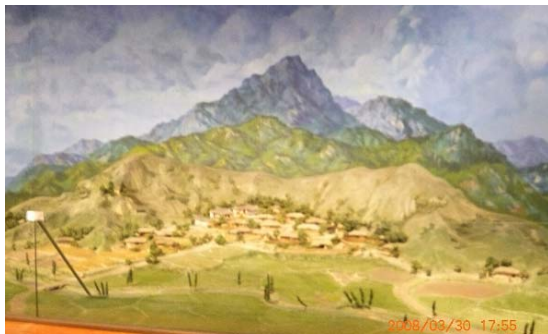
新羅王の胸に勾玉(倭製)



野外展示：地上大將軍地・地下女將軍



撮影中合田先生が一人ぼっちに



農村風景の再現



夜 Bonn 大学時代の親友 李玉姫に再会

夕暮れ時の景福宮はすこし凄みのある風情であった。合田先生を残してひとりで野外展示を撮影していたら、先生が不安になってわたくしを呼ばれたそうである。先生が、親ロシアであった王妃が王宮内で謀殺されたはずだとおっしゃっていたが、まさにあの博物館のあたりがその凶行の場だったことが後でわかる。

次回は仁王山と南山へ登りたい。ソウルと金海の国立博物館、金海の古墳も訪れてみたいと思う。古墳とため池の関係をじっくり調べたい。

夜 今度の旅行で大変お世話になった パク・キチャン氏が Ok-Hee に電話をかけてくださった。すでに 21 時半ごろであったが Ok-Hee は車を飛ばして会いに来てくれた。景福宮の近くに住んでいるという。ご父君は高麗大学の教授。5 月に日本で再開することを約した。

3 月 31 日第 3 日目 帰国 ソウル駅で記念撮影



九州大学大学院工学研究院
島谷幸宏教授とその水仲間
国土交通省 松木さん一家
福岡県河川砂防課 石田さん
福岡大学 渡辺先生
東工大大学院 豊田・山田さん
NPO 南畑ダム 山下さん
川づくり仲間の 榮さん母子
中村さん、小村さん、今井さん、村上さん、川口さん
総勢 21 名